

生命保険の使命と仕組み

～生命保険の社会的役割～

OLIS-東京女子大学保険フォーラム

2011年7月13日

プルデンシャル生命保険 顧問、ジブラルタ生命保険 顧問

河野 一郎

1. 生命保険とは

(1) 保険法の定義

(生命保険・傷害疾病定額保険)

- ・生命保険とは、人が死亡したことや一定の時点で生存していることを条件として、一定額の保険金を支払う保険。
- ・傷害疾病定額保険とは、人が傷害や疾病によって入院や死亡したことを条件として、一定額の保険金を支払う保険。

(参考：損害保険の定義)

- ・損害保険とは、火災や交通事故など（偶然の事故）によって生ずる損害を填補する保険。

(2) 生命保険の分類と販売商品

①分類 4種類

- ・ 死亡保険（定期保険）
- ・ 生存保険（純生存保険）
- ・ 年金保険
- ・ 医療保険

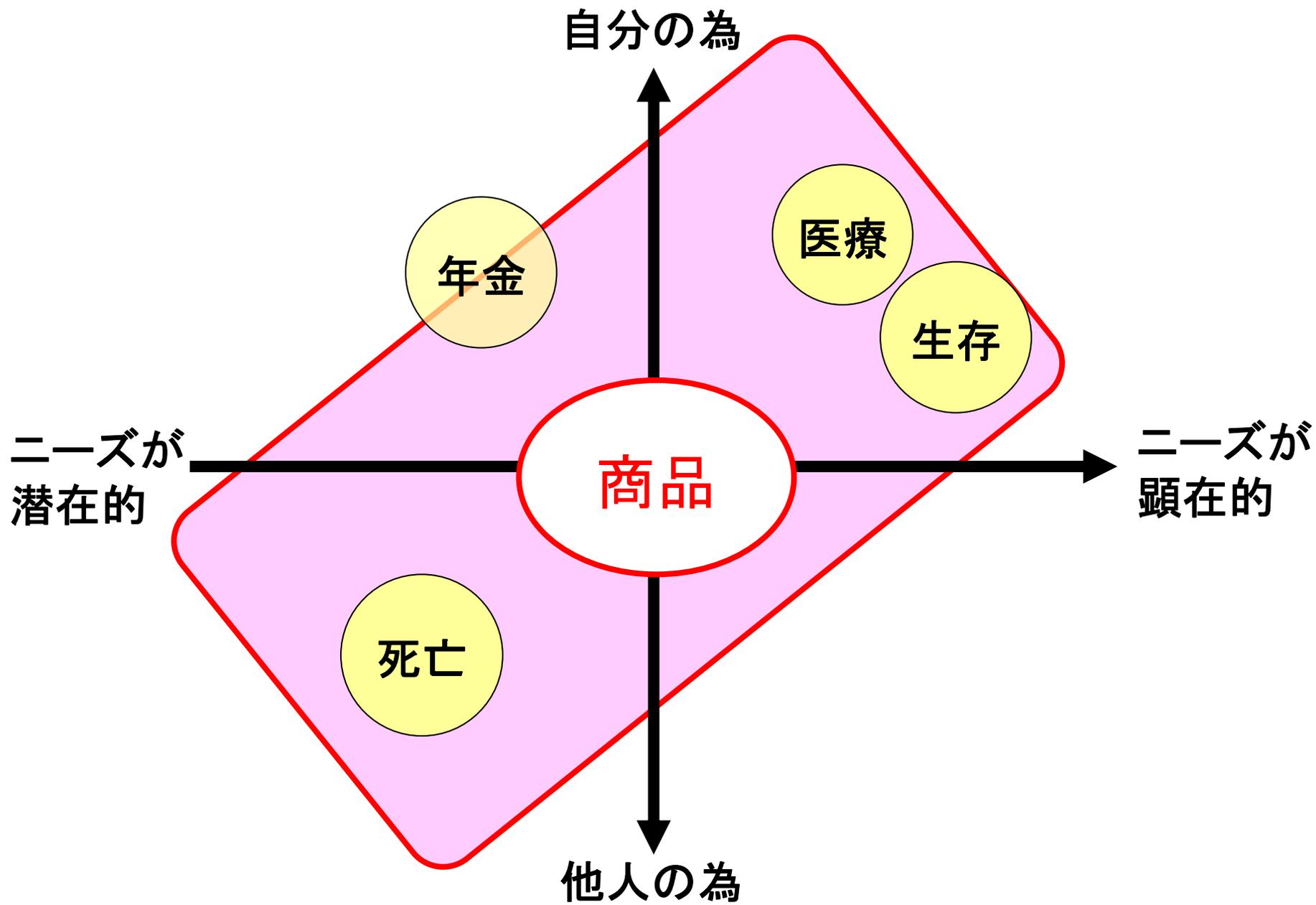
②販売商品

4種類の組合せ

ex. 死亡1 + 生存1 の組合せ（養老保険）

死亡3 + 生存1 の組合せ

死亡 + 生存 + 医療の組合せ



(3) 生命保険制度を支える

基礎理論 (技術)

- ① 大数の法則 (制度の根拠)
- ② 危険選択 (死亡リスクの均一化)
- ③ 収支相等の原則 (保険料算定)
(給付・反対給付均等の原則)

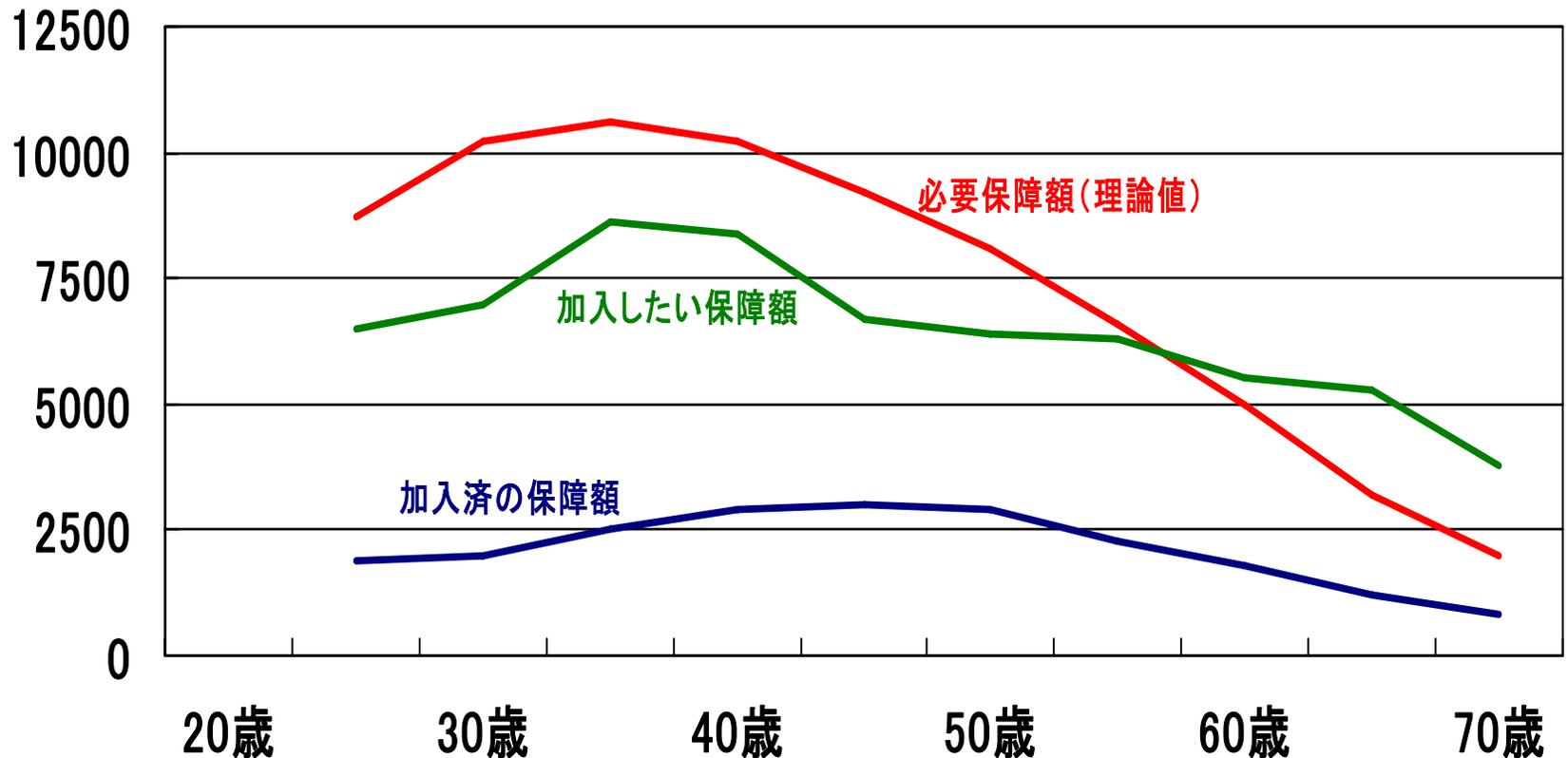
2. 死亡保険

(1) 死亡保険の特異性

- ① ニーズが潜在的
- ② ニーズを自覚した（顕在化）時は、既に加入出来ないことが多い
- ③ 自分の為ではなく、死後遺していく家族の為
- ④ 販売が難しく、工夫が必要

(2) 死亡保険の現状 (保障の充足度)

必要保障額の3割程度の充足度

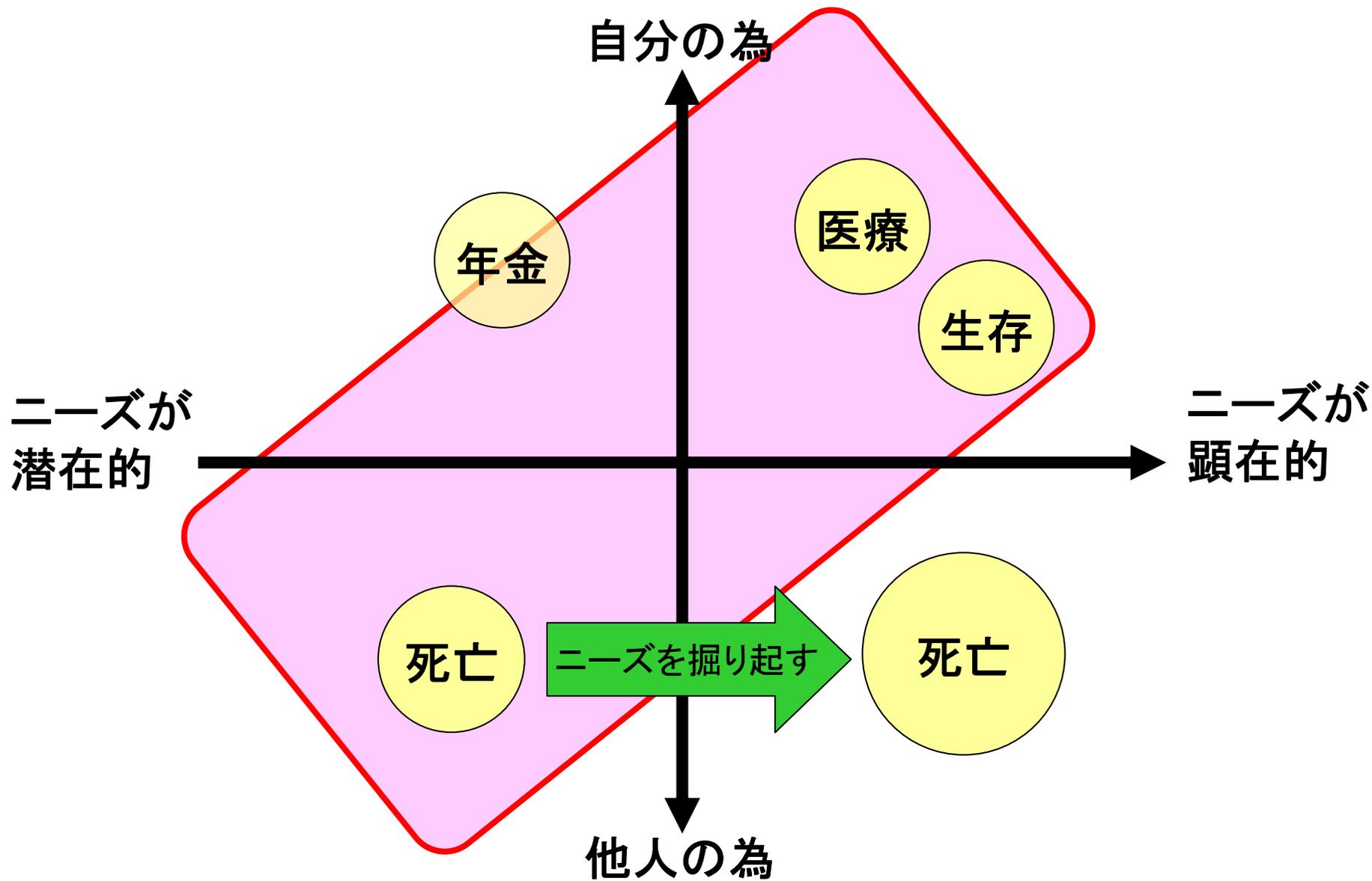


(3) 販売上の工夫

二つの戦略

- ① 商品 ⇒ よりセルフディマンドな商品
- ② 販売 ⇒ 潜在ニーズを顕在化

<販売上の工夫>



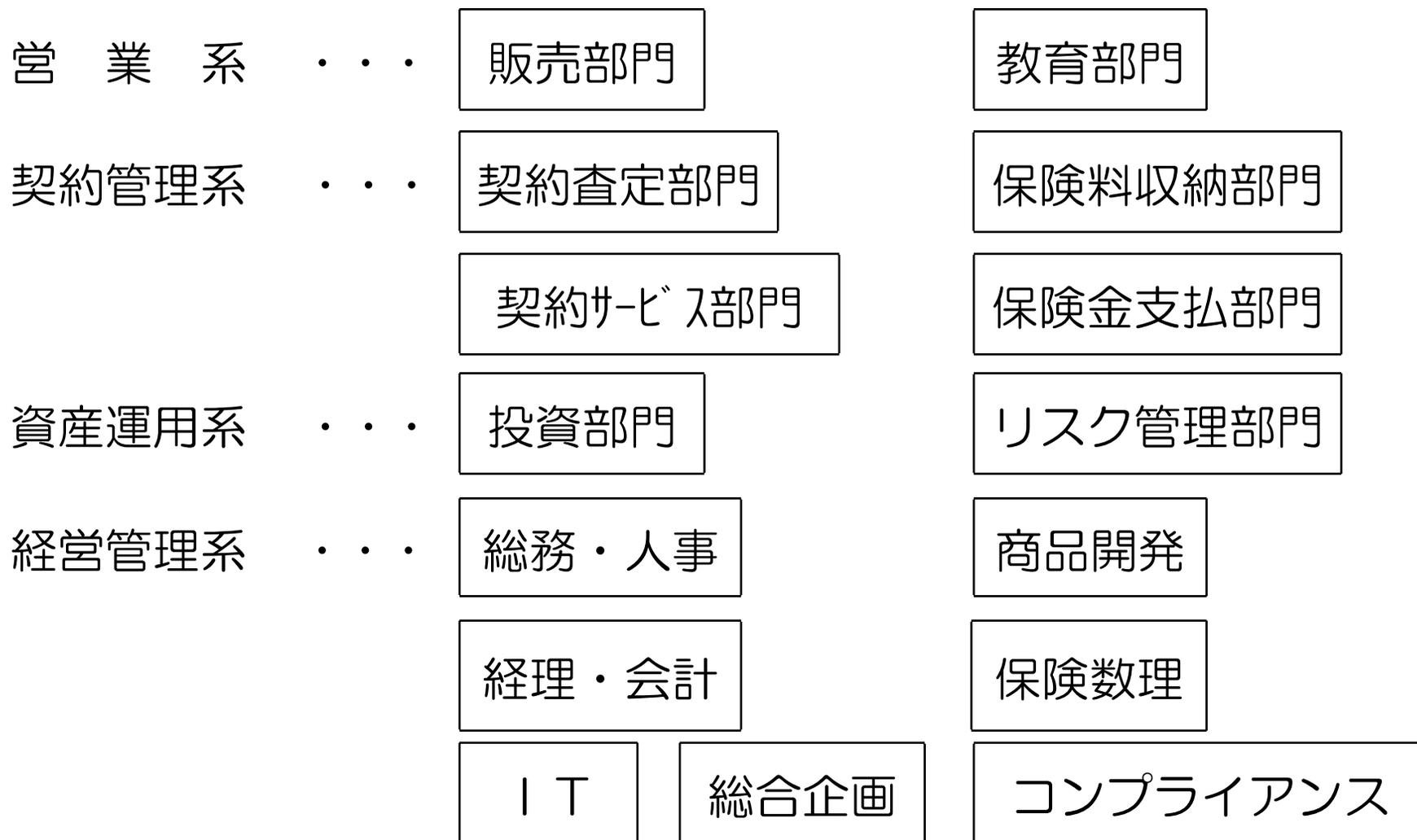
3. 生命保険業界の現状と 生命保険会社の組織

(1) 生命保険業界の現状

- 会社数 47社
- 従業員数 事務系 9万人
営業系 20万人
- 収入保険料 34兆円
- 総資産 318兆円 (対個人金融資産 22%)
- 保有契約高 902兆円 (対GDP 201%)

2009年度末状況

(2) 生命保険会社の組織と機能



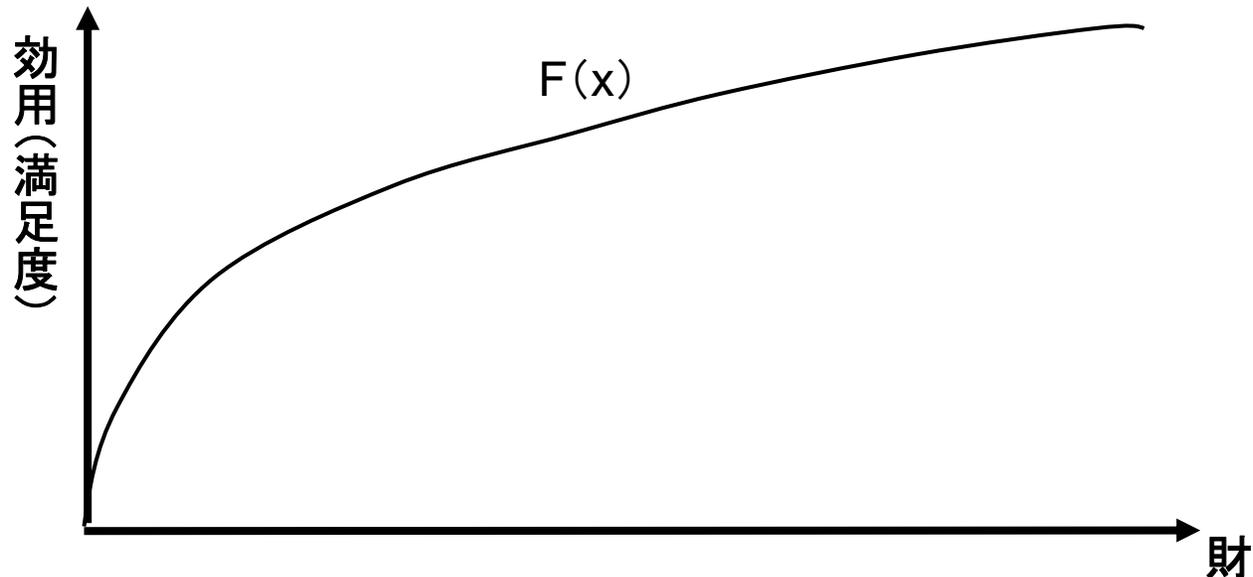
4. 保険と賭博(バクチ)

似て非なるもの

保険加入した場合の効用(満足度)は、加入しない場合より大きい。
逆に、バクチをした場合の効用は、しない場合より小さい。

限界効用逓減の法則

財やサービスを手に入れることによって感ずる満足度(効用)は、その量が増えれば増大するが、その増加量は次第に減少する。



< 保 険 >

保険加入の場合の効用

通常、保険事故が発生した場合、失う財を保険金で補うので、保険事故が発生しない場合と変わらない。

$$(1-p)F(x-a) + pF(x-a) \\ = F(x-a)$$

a:保険料

p:保険事故の発生確率

保険未加入の場合の効用

$$(1-p) F(x) + pF(x-S)$$

S:損失額

$$(1-p) F(x) + pF(x-S) < F(x-a)$$

< 賭博(バクチ) >

賭博(バクチ)をしない場合の効用

$$F(x)$$

賭博(バクチ)をした場合の効用

当たりを得た場合 $F(x+s-a)$ s :獲得賞金

a :掛金

はずれた場合 $F(x-a)$ p :当り確率

$$pF(x+s-a)+(1-p)F(x-a)$$

$$pF(x+s-a)+(1-p)F(x-a) < F(x)$$